

# 令和3年度第2回徳島市国土強靱化地域計画推進市民会議 議事録

開催日時: 令和4年1月6日(木) 10時~11時30分

開催場所: 徳島市役所13階 大会議室

出席者: 委員15人のうち12人出席(うち2人代理)

浅樋委員、上山委員、大宮委員、岡崎委員(代理:榎本氏)、賀好委員、島田委員、新宅委員  
(代理:黒田氏)、鈴江委員、田口委員、多川委員、中野委員、林委員(欠席)、板東委員(欠  
席)、坂東委員(欠席)、藤川委員

事務局

危機管理局長、危機管理局次長、危機管理課

徳島市国土強靱化地域計画推進会議幹事

## 【会議の内容】

### 1 開会

(事務局)

[事務局から会議資料の確認、欠席者及び代理出席者の紹介]

### 2 議事

#### (1) 令和3年度新規施策及び重要業績指標一覧について

(事務局)

[「資料1 施策及び重要業績指標一覧」の説明]

[「別紙 質問票」の説明]

(議長)

資料1、別紙 質問票について説明いただいた。何か質問や意見はあるか。

(委員)

別紙質問票にあるように、重要業績指標の設定がない施策について、来年度に向けて現況だけでも  
分かればと思う。

(議長)

別紙質問票に記載されている地籍調査の推進についてだが、先般、宮城県南三陸地方の各町長に  
対し、南三陸地方では震災前に、どの程度地籍調査が終わっていたのかと伺った際、調査が終わって  
いることは当然であり、なぜそのような質問が出るのかが分からなかったと言われた。徳島県全体では

約40%程度、徳島市では25%程度ということだが、地籍調査を進めるためには予算が必要である。予算は前年度の実績に応じてくるため、戦略的に実績を高めておく必要がある。現状だと、南海トラフ地震が発生した際、地籍調査が終わっていないことにより、復興事業の着手に10年くらいかかると思われる。復興事業は様々な課題があるが、その中の1番目が地籍調査だと考えているので、全力で進めていただきたい。

(委員)

施策No30の「既存木造住宅の耐震化率」について、耐震化の定義を教えてください。

また、目標値として100%を掲げているのは非現実的ではないのか。その目標に代わる低コストな計画を立ててはどうか。

(幹事)

耐震化率は、旧耐震基準である昭和56年以前の建築について、耐震性の有無により判定している。新耐震基準については一定の耐震性があると判断している。旧耐震基準では震度5程度しか耐えられないと言われているため、危険性が高く、9割以上の建物が何らかの不具合等により耐震性が無いと判定されているため、耐性の無い建物については、耐震改修の促進を促しているが、経済的理由等から改修までは至らないケースがあり、ご指摘のとおり耐震化率100%は現実的には困難である。そこで、徳島県同様、徳島市耐震改修促進計画を見直し、民間住宅については、概ね改修を図るように目標の修正を行っている最中である。しかしながら、現在、耐震性が無いと判定されている建物は、9,100棟程度あり、今後いかに減らしていくかが今後の課題となる。死者ゼロに向けての対策として、耐震性のない家屋について相談員の派遣や、介護の必要な方に支援員を派遣し、家具転倒防止対策等の実施を考えている。

(委員)

避難場所・避難路の安全対策について、以前、津田地区の避難場所における通路に問題があり、対策をしてくれるのか聞いたところ、対応が難しいとのことだった。狭い通路や崩れそうな階段があるので、再検討してもらいたい。

また、各避難所に防災備品等があるが、防災機材について、日常的に使ってはいけないと数年前に徳島市の担当者に言われたが、別の担当者には時々使用しても良いとも言われたため、意見を統一していただきたい。例えば、体温を計測する機器を市の担当者に確認し、実際に使用したところ、新品にも関わらず作動しなかったことがあった。説明書を確認すると、気温が低い場合、作動しないことがあると分かった。機械類は定期的に使用していないと、いざという時、動かないことがあるため、市の担当者にもそういった指導が必要である。

(幹事)

市道における災害対策連絡所への避難道路については点検し、安全に避難できるよう対策をしていきたい。

(議長)

津波避難場所は民地になっている場所もある。しかし、以前は民地利用を認めていた地主が、平時は使わないでほしいという意見が出てきていると聞いた。そうなると草刈等整備ができなくなるため、市側との調整が必要になってくると思う。市道における避難道路についても調整が必要と思うが如何か。

(委員)

避難所の機材については検討していただきたい。また、避難路については再度点検していただきたい。

(議長)

住民だけでは対応できない場合もあるので、行政でサポートしていただければと思う。

(事務局)

避難所の防災機材については、日頃から使っていただくことで災害時にも活用できるので、所管課へご意見を伝える。機材について使用できない場合は、その都度ご連絡いただければ対応する。

避難路について、市道については都市建設部で対応していくこととなるが、民地については、個々にご相談いただければと思う。地主のご協力を頂けなければ強制はできないので、地元の方々にもご協力を頂ければと思う。

(委員)

中学校の防災クラブについて、市は設置するだけなのか、それとも一緒に地域の方とも何かを行っていくものなのか。

(幹事)

防災クラブについて、地域の方とも連携しながら活動している。

(委員)

防災クラブを設置している学校と一緒に防災活動をしたことがあるが、学校だけで行うには限界がある。できれば地域の方とも一緒に活動したいとのことだが、コロナ禍でなかなか難しい。学校だけでは、学校だけの避難訓練が中心となり、それ以上の活動ができないため、防災士や消防団員とも連携し、一緒に活動ができればもっと活動の場が広がっていくのではないかと。津田中学校では、地域と一緒に様々な活動を行っているので、そういった活動ができれば、もっと大きな活動ができると思う。

(委員)

津田中学校は、徳島市内で初めて防災クラブを設置した。以降17年間、中学校独自の防災クラブを立ち上げて活動していた。しかし、防災クラブに入っている生徒と入っていない生徒間で防災力の差ができ、全体の底上げをしたいという観点から、令和3年度に防災クラブが無くなったため、自主防災連絡協議会の中に青少年部を作り、受け入れた。若い力に期待している。

また、自主防災組織の連絡協議会が数年前から無くなったので、防災の話し合いができる会を開催してほしい。

(事務局)

自主防災組織の連絡協議会が数年前から無くなったことについて、必要性は理解しているので確認する。

(議長)

他に質問・意見はあるか。

-----特になし-----

それでは、議題2について事務局より説明をお願いします。

## (2) 重要業績指標の進捗状況等の修正について

(事務局)

〔資料2-1 徳島市国土強靱化地域計画の重要業績指標の進捗状況等について〕の説明]

〔資料2-2 重要業績指標進捗状況調査表〕の説明]

(議長)

資料2-1、2-2について説明いただいた。進捗状況について、「要努力」となった施策の中には、コロナ禍であることや、予算の関係等が原因とのことだが、何かお気づきの点、質問はあるか。

(委員)

施策No17「福祉避難所の収容可能人数」について、令和2年度末の取組状況の達成度は順調となっているが、コロナ禍においては十分な間隔を空ける必要があるため、広さが問題になるが、どうお考えか。

(幹事)

今年度、テント整備を行った。テントが2m×2mとして、そこには1~2名しか入れないため、どうしても収容人数が減ってしまう。解消するには、福祉避難所の数が必要になってくる。本年度は新たに3箇所

追加し、177人の収容人数が増えたが、テントを使用すると想定より収容人数は少なくなるため、更なる福祉避難所の強化を図っていきたい。

(委員)

目標値である1,600人は、人数的にこれで足りるのか。余裕を持ったの数値なのか。

(幹事)

余裕はない状況である。

(議長)

感染症対策を行うと、収容人数は実際の数値の4分の1程度になってしまうため、多くの収容が難しくなる。

(委員)

達成度が要努力の施策について、原因としてコロナ禍によるものがあり、今年度以降も同様の状況になると考えられるが、例えば、リモート会議等を活用するなど、どのような対応を考えているのか。

(幹事)

移動消防署の実施等、対面形式は、コロナ等により実施が見通せないため、小学校に対しては、防災意識を高めるためのSNSを使用した情報発信や、DVDの視聴等により知識を深めていただくような取り組みを考えている。

(議長)

新型コロナウイルスの蔓延が3年も続くと、新型コロナウイルスに意識を奪われ、防災への意識が薄れてしまいがちになるため、様々な工夫をして施策を進めていただきたい。大学でもリモート会議等は当たり前になっているので、工夫をしてもらいたい。

(議長)

指標について、既に達成したものは指標一覧から除いていくのか。それとも今後も残していくのか。

(事務局)

当計画は令和5年度までの計画となるため、当計画期間内は達成した施策についても残しておくが、次期計画については除くよう検討する。

(委員)

北部下水処理場は地下に電源設備があるが、津波対策を配慮しているのか。

(幹事)

建屋については耐震対策を進めている。津波に対しても計画を立てている。地下にある電源設備については、例えば、密閉空間をどのように築造していくか等を考えながら、今後の課題として考えていき

たい。

(議長)

徳島市内全域に十分な津波対策は難しいと思うが、重要な部分だけでも守られる対策等を考えていただきたい。

(委員)

施策No81「水道管理施設の耐震化率」について、令和2年から令和4年までの目標値がずっと66.7%だが、最終の令和5年度に急に100%となっているが、令和4年度まで進捗はしないのか。また、施策No83「浄水施設の耐震化率」について、37.2%で達成となっているが、これ以降の耐震化率を上げていくことはないのか。

(幹事)

施策No81「水道管理施設の耐震化率」とは、執務室の耐震化を指しているが、当初3箇所あった執務室のうち、耐震性のある執務室が2箇所あり、66.7%としていた。しかし、耐震化のできていない本庁舎を現在は解体し、新庁舎建設に向けて取り組んでいる。また、施策No83「浄水施設の耐震化率」について、施設の耐震化は修繕費用等が大きく、令和5年度までについては37.2%で計画している耐震化を完了している。令和5年以降は次期国土強靱化地域計画の中で改めて目標を立て、できる限り100%に近づくように目標設定を考えている。

(議長)

他にご質問等はあるか。

-----特になし-----

それでは議事を終了させていただく。委員の皆さんには、議事の円滑な進行にご協力いただき、ありがとうございました。進行を事務局にお返ししたい。

(事務局)

[事務局から今後のスケジュールを説明]

### 3 閉会

以 上